

60周年記念事業 施設整備計画

- | | |
|--------------|-----------------|
| ① 学生食堂建て替え計画 | (2階建て 2000㎡) |
| ② 駐輪・駐車場の整備 | (100台を目指す) |
| ③ 60周年記念館 | (1000㎡程度) |
| ④ 同窓会パビリオン | (平屋が望ましい。設計コンペ) |

将来構想

- | | |
|------------------------------|------------|
| A 倉庫(有形登録文化財)整備 | |
| B 3号館(有形登録文化財)整備 | 概算要求 |
| C 美術工芸資料館設備など | 概算要求 |
| D 北門コーナー整備 | 外部資金用地 |
| E KITフューチャーセンター | 事務/管理設備高度化 |
| F KITドーム | |
| G 文化財移築 (文化財として価値のある解体建築の移築) | |

予算規模、必要性、場所の適性などを総合的に考慮して、実現性の高い①～④の計画を提示する。

(環境・施設委員会、2009年3月)

I 学生食堂の建て替え計画

① 趣旨

現在の手狭な食堂を建て替え、学生、教職員の厚生ならびに生活上のサービス向上に寄与する施設を整備する。さらに大学会館と生協食堂に囲まれたポケットパークの景観形成とアメニティ向上を図る。

② 施設概要

大学会館内のブックセンターおよび旅行センター、生協売店文具、ミニ・コープなどを1階に集積し、生協食堂を2階に配置した総合サービスセンター（ショッピングセンター+コンビニ）を新設する。

③ 期待される波及効果

ブックセンター跡地に学生サービス課を移転させ、生協販売部を整理して研究センターの拠点整備に活用するなど、大胆かつ広範な配置計画が可能となる。

II 駐輪・駐車場の整備計画

グラウンドに駐車場（100台分）を新設し、バイク、自転車を含む交通問題を総合的に解決するとともに、キャンパスの背骨を整備して高機能化・高付加価値を有する軸線とする。

中央通が整備されると、プラザ KIT などキャンパスアイデンティティの向上が期待される。

III 60周年記念館 新営 1000㎡、中央門東キャンパス南

① 趣旨

この施設は、一連の耐震改修工事の終美を飾る、画竜点睛となるべき施設である。再雇用教員・職員の面積の確保、組織改定時の避難場所の確保、学長裁量ポストに対する面積の確保などの変化に対応できる面積を確保し、法人主導の戦略的施設とする。

② 施設概要

1階	記念ホール	200㎡		
2階	講義室	200㎡	+	ゼミ室（46㎡）
3階	研究室	58㎡ x 3室	+	会議室（46㎡）

② 全体への波及効果

学外共同研究者の発表会、学会、教育懇談会、高校見学会などの社会的活動に活用できる内容とする。

環境・施設委員会がゾーニングを推進するための種地として戦略的に活用する。

IV 松ヶ崎 KIT 会館

① 趣旨

同窓会との連携を深めるため、創立60周年を記念して工織会館横に新同窓会館パビリオンを新設し、新同窓会の活動拠点とする。

② 敷地

新同窓会パビリオン（卒業生）、工織会館（宿泊・交流）、KIT 倶楽部（職員・教員のOB）の3者が共存する敷地全体を松ヶ崎 KIT 会館と名づける。

敷地形状は、 $4.3\text{m} \cdot 23\text{m} = 102\text{m}^2$

③ 要件

規模と構造は予算次第であるが、実際には、木造平屋建て、60 平米程度か。

設計に当たっては、基金委員会の担当者が審査員となるコンペ方式で行う。

以下、4つの計画について、2009年2月12日環境・施設委員会承認案に基づき、より具体的内容を整理する。

学生食堂の建て替え計画について

趣旨

- 現在の学生食堂は、厨房が古くなり、衛生基準を満たすのが困難な状況にある。食堂部も狭隘であり、早晚、建て替える必要がある。
- 学生、教職員の厚生ならびに生活上のサービス向上に寄与する施設を整備し、学生会館と生協食堂に囲まれたポケットパークの景観形成とアメニティ向上を図る。
- 建て替えによる波及効果は、予想以上に広く、構成員の生活向上と学生サービスの向上のみならず、学生会館2階のブックセンターや生協購買部の跡地は、教育・研究・事務などを再配置できる貴重なスペースとして活用が期待できる。

計画概要

- 現在の食堂を2階建てとする。
 - 1階859㎡、2階1028㎡、延べ1887㎡を予定。
 - 1階には、購買部を移設。また、学生会館2階のブックセンターを移設。
 - 2階には、食堂と厨房を移設。

波及効果の流れと検討課題

- (1) 購買部の1階、2階を教育研究施設として再活用する案。
 - 購買部2階の学生団体の諸室を学生会館2階のブックセンター跡地に移設。ブックセンター跡地に、松ヶ崎祭G、新入生歓迎実行委員会、留学生談話室、を移設。生協学生委員会は、新食堂へ、体育会+文化連合の打ち合わせ室は、クラブボックスへ。
 - 購買部の再利用は、たとえば、伝統みらい研究センターが常設化された場合の拠点整備などが考えられる。
 - さらに、プレハブ実験棟が活用できれば、L棟やものづくりセンターなどの移設を行い、更なる整備が可能となる。
- (2) 学生会館ブックセンター跡地に学生サービス課を入れる案
 - 学生会館2階ブックセンター跡地（165㎡）に学生サービス課を移転
 - センターホール1階に入試課
 - 入試課跡地に研究協力課

(1) は教育・研究スペースを増設する案であるが、学生団体だけが学生会館に入居することに、管理上の不安がある。(2) は事務局各課の配置換えを行うが、結局、地域共同研究センターのスペースが増える案。バリエーションは様々考えられるが、(1) と(2) を同時に完全実施するのは困難であるが、(1) と(2) を組み合わせて部分実現することは可能である。

駐輪・駐車場整備と交通対策

趣旨

駐車場、バイク置き場、駐輪場の確保に関しては、通勤、通学に関わる許可証の発行件数に基づいて整備されてきた。結果的に、車とバイクは量的には充足している。課題は自転車である。自転車が棟周りに多数駐輪されており、美観的にも緊急車両の接続においても、放置できない状態にある。

これまでの発想を逆転し、需要に見合った空間整備をするのではなく、限られた空間資源に見合った総量を算出し、構成員に配分する方策をとる。すなわち限定された空間資源を車、バイク、自転車に配分し、駐車場、駐輪場などをハード的に整備し、平等性と納得性の下で構成員に貸与する。さらに有償化に見合った人的管理を導入する。

整備の方針

(1) 車について（防球ネットの移設費）

グラウンドに駐車場（100台目標）を新設し、中央門通りに出入り口を設け、認証式の開閉設備を整備する。通勤車両の構内乗り入れを抑制し、バイク、自転車を含む交通問題を総合的に解決する拠点とする。有償化を念頭において、駐輪場の整備員の費用等に当てる。外部からの搬入車両は、中央門から入校し、構内外周路を一方通行で走行し各現場にいたる。西キャンパス内の駐車場は搬入車を念頭において90台程度を残存させる。

(2) バイクについて

バイク置き場の量的措置と許可証発行数は見合いであり、若干の余裕がある。学内走行禁止のルールも守られている。バイクに関する課題は、中央門と馬橋門の2箇所から入構可能であり、無人の馬橋門の管理が行き届かないこと、バイクの廃棄処理に関して盗難車の確認などに手間がかかることである。駐車場整備とあわせ、中央門通りに出入り口を設け、門の開閉を認証者のみにするなどの管理設備で対応するのが望ましい。

(3) 自転車について

許可台数に見合う駐輪場を整備している。課題は、許可台数以上の自転車が構内にあること、構内走行禁止の原則が守られていないこと（特に西側キャンパスと東側キャンパスの往来）、駐輪場以外の場所（特に講義室周り）の駐輪である。

①案 原点に戻ること。

「総量規制の原則」、「構内走行禁止の原則」を設備的にも人的にも資源を投入して遵守させる方法。車、バイク、自転車の許可台数と駐輪・駐車場の整備台数の対応をとり、監視員の下に構成員に遵守させる。

この案は、過去30年間の経緯や現状から判断して、現段階ではまだ理念的に過ぎる。キャンパス外の駐輪が増加して住民とトラブルになり、対応に追われることが見えている。

②案 現実路線

車とバイクを制限し、自転車の乗り入れと構内走行を解禁する。建物入口周辺は駐輪禁止とするが、その他の領域に可能な限り駐輪可とする領域を設定する。常時整備員により、清掃と駐輪状態を整理する。この方策は学生からの（提案⑦—4）であり京大百万遍キャンパスは実例である。京都議定書に配慮したキャンパス計画として位置づけ、駐輪違法状態を解消する方策である。

交通規則の運用

③ 総量規制の原則

毎年の許可証発行：現行の4年間の許可証制度を見直し、識別色を用いて、年度ごとに色を変え、同色ステッカーの自転車のみを入構許可する。許可証のない自転車は、門衛所で臨時入構許可証を発行して、門の脇の駐輪場に入れ、構内走行を禁止。年度別の許可証発行手続きは、再雇用職員に手伝ってもらおう。

④ 構内走行禁止の原則

中央門監視体制により、東西キャンパスの行き来を禁じる。これは入試の時と同様の管理体制であり、日常的に実行するのは困難である。時間帯によって、東西いずれかの門を閉じ、脇の小門からの出入りとする方策もある。実験的に、4月と10月の学期初めの期間のみ再雇用職員による入構時の許可証チェックを行い、総量規制と構内走行を止める管理と周知を行う。

60周年記念館の新設

趣旨

60周年記念館の新営は、過去5年間の施設整備の画竜点睛となるべきものである。学内への波及効果、位置のポテンシャル、大学全体の景観構成、予算など種々の面から検討したが、結果的に、現段階では、60周年記念会館とし、1000㎡程度の記念ホール、講義室、研究室からなる建物とするのが最適であると判断する。なお今後余裕があれば、190㎡3層分、述べ570㎡が拡張可能な計画を準備している。

計画概要

- 1階 記念ホール 200㎡
 - 2階 講義室 200㎡ + ゼミ室 (46㎡)
 - 3階 研究室 58㎡ x 3室 + 会議室 (46㎡)
- 3階は3講義室としても使用可能な間仕切りを想定しており、3学域に対応した使用も可能である。
- 現行の面積配分は、学部・研究科分が不足しており、センターは充足している。予算を有効活用するには、学会、講演会、講義など、学生・教員・市民が利用できる施設として位置づけるのが適切である。

波及効果

- 1、2階は、立地特性から、学外共同研究者の発表会、学会などの社会的活動に活用できる内容とする。
- 1階ホールは、大学院秋入学や修了式などの式典や総合研究棟4階のような使い方を想定している。また、総合研究棟4階の多目的室の機能の一部を担える内容とする。
- 再雇用教員・職員の面積の確保、組織改定時の避難場所の確保、学長裁量ポストに対する面積の確保、といった人的変化に対応できる面積を確保し、法人主導の空間とする。
- 環境・施設委員会がゾーニングを推進する際の種地として活用できる空間とするなど、戦略的に活用する。

新同窓会パビリオン設計競技 要項（案）

京都工芸繊維大学60周年基金委員会事業部会

京都工芸繊維大学環境・施設委員会

趣旨

創立60周年を記念し、大学と同窓会との連携を深めるため、工織会館横に新同窓会の拠点を新設する。

新同窓会パビリオン（卒業生）、工織会館（宿泊・交流）、KIT 倶楽部（職員・教員のOB）の3者が共存する敷地全体を松ヶ崎 KIT 会館（仮称）と名づけ、学内外の交流と親睦を図る。

敷地 添付図参照のこと

- 京都市左京区松ヶ崎鞍馬田町15-1
- 建設予定地 図参照（工織会館横の芝生の部分 $4.3\text{m} \cdot 23\text{m} = 102\text{m}^2$ ）
- 用途地域 第1種低層住宅専用地域、10m高度地区
- 建蔽・容積 建蔽率50%、容積率80%
注意：現状延べ面積計 $584\text{m}^2 < 947\text{m}^2$ 、現状建築面積計 $355\text{m}^2 < 591\text{m}^2$
- 美観・風致 山並み修景地区、眺望景観・遠景（修学院離宮、清水寺、船岡山）

計画施設概要

- 事務室、打ち合わせスペース、資料室、便所など。
- 外構計画、設備、空間配置は、適宜提案していただきたい。
- 規模と構造は予算次第であるが、木造平屋 60平米程度を想定している。
- 京都市の条例ならびに法令を遵守し、周辺的美観に配慮した案を求める。

応募概要

- 応募作品は、応募者1作品とします。
- 応募者は設計コンセプト、図面（配置図、面積表、平面図、立面図〈2面〉、断面図 屋根伏せ図）及び完成予想図（1面）等をA2版用紙1枚にまとめ、応募用紙とともに提出してください。（額入りやパネルボードは受け付けません。）
(公平を期するため提出する作品〈A2版用紙〉には応募者の名前がわかるようなものは記入しないでください。当方で整理番号を付けて管理します。)
- 応募作品の返却はしません。保存が必要な場合はあらかじめ複写しておいてください。
- 入賞作品の著作権及び発表等の権利は京都工芸繊維大学が保有することになります。

応募資格

- 一級建築士の資格を有する本学卒業生ならびに本学教職員

提出期限

- 提出資料は、平成21年3月31日（火）必着とします。（当日消印有効）

賞金

- 優秀賞20万円、佳作5万円を予定。
（優秀賞に選定されたものは、実施設計業務を行うものとする。辞退の場合は次点者が行う。）

審査委員

- 京都工芸繊維大学60周年記念事業松ヶ崎 KIT 会館（仮称）新営のための準備委員会の委員

審査及び発表

- 審査結果は入賞者に通知するとともに京都工芸繊維大学ホームページにて発表します。

応募先

- この設計コンペに関する問い合わせは受け付けません。
- 〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町1 京都工芸繊維大学施設マネジメント課

その他

- 応募用紙は次ページにあります。

新同窓会パビリオン設計競技

応募用紙

住所	〒 ー
氏名	
連絡先電話	(会社) ー ー (自宅) ー ー (携帯) ー ー
所属（会社名又は学校名）	
卒業年次	
卒業学科名	
1級建築士登録番号	第 号 (免許証のコピー添付のこと)
建築士事務所名	() 建築士事務所 () 知事登録第 号

※受付年月日	
※受付担当印	
※整理番号	